



## 深刻な人手不足… ドイツの介護事情 (後編)

看護や介護の人手不足はドイツでも深刻です。ヨークは「老人ホームの母はシャワーは週に一度だけ。ろくに手や顔も洗ってくれない。人間の尊厳を損ねている」と憤慨しています。コロナ禍を経て人手不足はますますひどく、こういう状態が最近はやや普通だそうです。

ドイツでは大学を目指さない人は高校1年で学校は終了となり、職業訓練に入ります。職業訓練は3年かかり、公立校での学費は無料で訓練中はお小遣い程度の手当てが出ます。

ママ友の娘は眼鏡屋で職業訓練を始め、卒業すると眼鏡の専門家としての職業資格が与えられます。ドイツでは基本的に資格を持つ人がその職業に従事することになっており、図書館、鉄道、給仕などほぼ全ての職業に専門の訓練学校があります。

看護職も同じで、病院や診療所で職業訓練生として採用されます。6週間理論を学校で習い、それを6週間現場で実践し、また学校で学ぶという方法で、理論と実践を交互にします。だから体で覚えらる。

日本では学生は看護資格がないという理由で実習にいてもほとんど何もさせてもらえず、働き始めてから初めて「こんなはずではなかった」と思う

人が少なからずいるとか。ドイツは現場重視ですから、向いていないと早々に方向転換する人や、適性がないと判断して病院側が契約を解除することもあつたそうです。

職業訓練中の手当では(学費はもちろん無料)、看護職は他の職種よりずっと高く月額1240ユーロ(25万円)です。ゲティンゲン大学病院の看護師長によると「人手不足だから高額になっている」とのこと。日本では反対に学費を払うという「えー、ドイツだったら誰も志望しないでしょう」と驚いていました。

ハノーファー大学病院では人材獲得のため、3年で30万ユーロ(5000万円)の予算をつけ、三人が専従で取り組んでいます。学校に出かけて若者をリクルートしたり、病院で医療の現場を体験してもらいます。

患者から感謝され、こんなにもやりがいのある仕事だとは知らなかったという感想がほとんどだとか。「看護師というどうしても補助的な役割と思いがち。しかし患者と接し、医療活動をするプロであり、社会的な職業であることを知ってもらいたい。社会的に認知されるべき職業だ」と担当者は話します。また人材維持のため、看護師が労働時間やシフトなど働き方を選べるなど、キャリアプランを描けるしくみ

を導入し、魅力的な職場づくりに尽力しています。

人手不足解消のため、ドイツは国として海外から看護師を募っていますが、海外の看護資格はドイツではすぐには認められず、研修を受けて試験に合格する必要があります。文化や言語の壁も高い。上述の大学病院ではチュニジア、セルビア、イラン、トルコ、コンゴを筆頭にさまざまな国から外国人看護師を受け入れています。「夜勤もあるし、こんな大変な仕事をドイツ人ははたがらない」という看護師もいました。

最近老人ホームで働き始めた日本人の知り合いがいます。早朝や夜遅いシフトもあり、資格がなくてもフルタイムで働けば十分生活できます。

資格があると給与アップとなりますが、3年の職業訓練中は給料が減るののためらっているといひます。肉体労働だし、資格を取って一生この仕事につくのか、それとも別の可能性を探るのか悩ましいところだ。

いくら人材が養成されても、仕事がハードでストレスが多ければ離職者も多くなります。ドイツでは看護師や医師が待遇改善を求めてストをすることも珍しくありません。仕事内容や人員配置、昇給、ワークバランスなど課題は山積みです。

ごみかんドイツ特派員 田口理穂

### AKIRA

### 成長記録

17歳になって2日後に、明は右足首の手術をしました。数年前から痛く、昨年秋に日本で簡単な手術をしましたが、一時期改善したもののまた痛みがぶり返してきたため、10月終わりにドイツで少々複雑な手術をしました。病院に4泊しましたが、手術をした医者はその病院には手術のために来るだけで、通常は隣の診療所にいます。そのため術医に様子を聞くこともできず、病院専属の他の医者の対応となりました。

抜糸は小児科でしましたが、4カ所あるうち1カ所は皮膚の下に入り込んでいてできず、手術をしたところへ行くよう言われ、病院に行きましたが「ここでははそのような



複雑な足首の骨にネジがいっぱい!

処置はしないので整形外科に行ってくれ」と。でもアポが取れません。病院の受付の人が気の毒がってこっそり教えてくれた整形外科に飛び込みで行き、なんとか抜糸してもらいました。

そこで感じたのは、ドイツは医療費が無料なのはよいのですが(入院費や術後のリハビリ8回も無料)、手術と日常の医療が分かれており、術後の定期健診は他の医者が行うため何となく不安です。また家庭医も専門医もアポがとて取りにくく長く待たされます。

明の足にはネジが7本も入り、レントゲン写真を見てぎょっとしました。年末まで松葉杖生活ですが、本人は「手術をしたからこれでよくなるのでうれしい」と楽観的で、学校でエレベーターの鍵をもらい、特別に使えるのを楽しんでいます。